

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

<b>事業名</b>	日印IT交流促進経費		<b>担当部局</b>	アジア大洋州局		<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成19年度開始		<b>担当課室</b>	南西アジア課		課長 田島 浩志			
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	I-1 アジア大洋州地域外交					
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	外務省設置法第四条第一項		<b>関係する計画、 通知等</b>	日印行動計画(2005年)、日印首脳による共同声明(2006年、2007年、2008年、2009年及び2010年)					
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	インド情報技術工科大学ジャバルプル校(IIITDM-J)及び同大学ハイデラバード校(IITH)への支援を通じて、日印双方に裨益する協力関係を構築する。								
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	1. インド情報技術工科大学ジャバルプル校(IIITDM-J)支援:「国際競争力を有する製品作りのために、インドで初めてITを用いた設計と製造に特化した教育・研究」を行うことを目的に設立されたIIITDM-Jに対し、日本側産官学関係者のコンソーシアム会合の開催や日本の強みである製造業の技術、知識を活かした知的支援を行う。 2. インド工科大学ハイデラバード校(IITH)支援:インド最高峰の理工系機関であるインド工科大学の新設ハイデラバード校に対し、日本式工学教育のインドへの導入、日印間の人的・学術交流強化のための支援を行う。								
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予算の 状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求			
		当初予算	13	17	23	17	16		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-	-		
	計	13	17	23	17	16			
	執行額	17	9	14					
執行率(%)	128%	54%	61%						
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)		
	日本企業・大学とのネットワーク構築、卒業生の日本の大学への修学及び日本企業への就職		成果実績 ジャバルプル校及びハイデラバード校学生数	-	528	-	669		
			達成度	%	100				
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込		
	・インド国内の設計・製造関連人材の育成 ・インド産業界(特に製造業)への貢献 ・日本式工学教育の普及 ・進出日本企業への優秀な人材供給源 ・日本国内の大学・企業とのネットワーク構築		活動実績 (当初見込み)	講師派遣人数 21 (20)	16 (20)	23 (20)	- (20)		
<b>単位当たり コスト</b>	旅費620,000円/1名		算出根拠	旅費500,000円+謝金120,000円=620,000円/1名(3日現地滞在の場合)					
<b>平成23年度 (単位:千円) 予算内訳</b>	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由					
	謝金	1,800	2,080						
	旅費	15,162	13,444						
	計	16,962	15,524						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	東日本大震災の影響による出張取りやめ等のため、不用率が大きくなった。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成22年度においては、以下の事業の実施を通じて、インド情報技術大学ジャバルプル校及びインド工科大学ハイデラバード校への支援、協力を行った。</li> <li>・産官学から構成されるコンソーシアム会合を国内で開催し、支援の進捗状況及び今後の支援の方向性に関する協議を行った。</li> <li>・大学・企業の専門家を派遣し、最先端のIT設計・製造技術等についての講義・指導・ワークショップ等を実施した。</li> <li>●会計面では、旅費については可能な限り格安航空券を使うなど、経費の節約に努めた。</li> </ul>	
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		事業の見直し、単価の見直しによる減	
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
縮減(事業の見直し、単価の見直しによる減)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

\* 22年度実績記入

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて  
補足する)(単  
位: 百万円)

外務省 14百万円
日印IT交流促進



A. 国内IT関係有識者30名 14百万円
コンソーシアム会合出席旅費 ・講師派遣旅費・謝金

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者について  
 記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かるように記載)

A. 出張者1			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費、謝金	インド情報技術大学集中講義	1			
計		1	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者1	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	1.31		
2	出張者2	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	1.14		
3	出張者3	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.74		
4	出張者4	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.74		
5	出張者5	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.74		
6	出張者6	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.71		
7	出張者7	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.71		
8	出張者8	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.71		
9	出張者9	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.7		
10	出張者10	インド情報技術大学集中講義出張旅費、謝金	0.7		